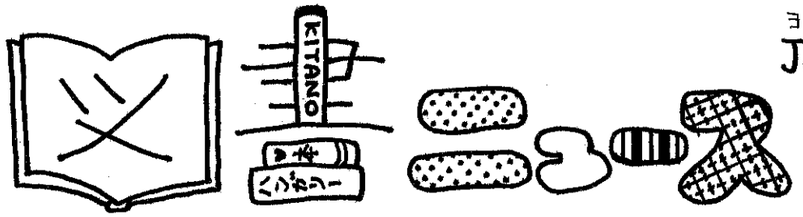


ヨー ナポットゥ ミンデンキ
Jó napot, mindenki!
こんにちは みなさん

大阪府立北野高校図書館
第５号　2021. 2. 17 発行

こんにちは。２年生の英語科の山本美里です。今年の図書ニュースのテーマも「視野が広がるシリーズ」にしたので、また私の興味と趣味の詰め合わせになってしまいました…。ぜひ読んでください◎

◎　The little book of HYGGE　ヒュッゲ：365 日「シンプルな幸せ」のつくり方
　マイク・ヴァイキング（著）アーヴィン香苗（訳）　三笠書房　　590 WI

今年は大変な年でしたね。学校でのイベント、お出かけや旅行、お買い物や外食…。これまで当たり前のように楽しんできたことは色々できなくなったのに、やるべきことは変わらず追いかけてくる毎日に、少し疲れちゃった人も多いのではないでしょうか。いつになったらまた安心してのびのび過ごせるんだろう…。考え過ぎてしんどくなったら、この本！　HYGGE ですみなさん、ヒュッゲ！

近年日本でも注目されているヒュッゲ、聞いたことはありますか？　デンマーク人が毎日使うこの言葉、一言で説明すると「居心地がよくて心がほっこりする感じ」というような意味です。幸福度ランキングでいつも上位に君臨するデンマークで愛されているヒュッゲとは、どんなものなのでしょうか？

この本に登場するヒュッゲをいくつか示します。寒い日にろうそくをつけて温かい飲み物を飲む、ゆるい着心地の良い服でおやつを食べて音楽を聴く、部屋を植物や好きなもので飾る、雨の日にお気に入りの映画や本や趣味に浸る、綺麗な景色を見ながら外の空気を吸い込んでサイクリングをする…。（私は大学時代、子供用自転車で颯爽とコペンハーゲンを巡った時、鳥に落とし物をされ、全くヒュッゲどころではありませんでしたが。）

280 ページもあるこの本には、他にもまだまだヒュッゲが登場します。素敵な料理のレシピ、おうち時間のヒュッゲお助けセットの準備、家族や友達との時間の過ごし方、ヒュッゲに関するたくさんの研究報告など「シンプルな幸せ」への思いがけないヒントがぎゅっと詰まっている本なのです。それだけではありません。ため息が出るような綺麗な写真でいっぱいで、パラパラ眺めるだけでも楽しいです。

ここまで読むと、ヒュッゲは遠い北欧のおしゃれなものかと思うかもしれませんが、そうではありません。家族とおしゃべりしながらこたつでみかんを食べるのも、河川敷に座って空を見ながらたこ焼きを食べるのも、立派なヒュッゲです。みなさんのヒュッゲな時間は何ですか？　気持ちが重く沈んでしまった時こそ、身の回りのシンプルな幸せを探してみましょう。

ホ(ニュ)ジュ テルトゥ エズ アズ (イェ)ーグ
Hogy telt ez az év?
どのように 過ごした この(定冠詞)年

◎ 海を渡った故郷の味　Flavours Without Borders
　認定 NPO 法人　難民支援協会　（編著）　596 NA

１冊目では、ヒュッゲを通してデンマーク人の考え方に触れられますが、このレシピ集では、料理を通して私たちに馴染みのない 15 の地域や民族（エチオピア、パキスタン、クルド、アゼリなど）の暮らしを見ることができます。そこではどんな料理が食べられているのでしょうか？　この本を開くと、美味しそうな料理の色鮮やかな写真が目に飛び込みます。実はこの本の 45 個のレシピは全て、日本で暮らす難民の人たちから教えてもらったものなのです！　「難民」と聞くと、「私たちには関係ない困っている人」と思うかもしれませんが、毎年約１万人が日本で難民申請をしています。しかしその中で認められるのはわずか数十名で、平均２年半かかる手続きを終えた後も、故郷を懐かしみながら困難を乗り越えて日本で暮らしているのです。

みなさんには、忘れられない料理はありますか？　もしくは、時間が経って再開した懐かしい味や匂いをきっかけに、それにつながるあの日の思い出が急に鮮明に呼び起こされた経験はありませんか？　レシピを提供してくれた難民の人たちにとってこれらの料理は、故郷で食事を共にした家族との思い出を繋ぎとめる大切なものだと思います。そう考えながらページをめくると、これまでとは少し違った切り口で難民問題が見えてくるのではないでしょうか。また、全てのレシピにコラムがついていて、その地域の習慣、日本で調理する上でのコツ、レシピを伝授してくれた難民の人の話も知ることができるだけでなく、巻末の地図とインタビューを通して、より深くレシピ本を味わうことができます。

そして、この本のもう一つのいいところは、全ての記述に隅々まで英語訳がついているところです。レシピならではの表現がいっぱいなので、美味しく楽しく勉強ができるなんて一石二鳥ですね！

ミイェン (ケ)コ(ェ)ニ ヴェケットゥ セレッテック
Milyen könyveket Szerettek?
どんな 本（複数）を 好きな（あなたたち）

◎ ヨーロッパのかわいい刺繍
　誠文堂　新光社　　753 SE

刺繍や手芸が好きな人！　世界の伝統文化や習慣を知りたい人！　かわいいものやアンティーク、デザインが好きな人！　ヨーロッパの 22 の国に伝わる、素晴らしく素敵な刺繍の写真が、詳しいコラムと共に溢れているこの本は、何時間でも眺められます！　みなさんは刺繍と聞くと、何を思い浮かべますか？「私はセーケイの人間で、誇りに思う。」これは、ルーマニアのハンガリー少数民族の知人が民族衣装を着た時に言っていた言葉です。自分の帰属集団の歴史や伝統、生き方そのものに対する誇りに形を与えたものが民族衣装であり、ヨーロッパの場合、その衣装にほぼ必ずと言っていいほどあしらわれるのが刺繍なのです。

世界には、私たちが聞いたこともない民族がたくさんいて、その一つ一つに、次世代にも継承すべき美しい伝統文化があります。しかし残念ながら、日々失われつつある伝統もたくさんあります。私がハンガリーで習っていた Hövelji 刺繍（本書では紹介されています！）は、ハンガリー国内での知名度も低く、担い手が激減している刺繍です。その刺繍を教えてくれた先生には、日本でも続けて広めてほしい、と言われました。（未だに出来上がっていませんが…。）外国人である私たちだからこそ、その地の文化を自分たちの国でも広めることで、文化継承を促す初めの小さな一歩になるのではないでしょうか。

この本には、専門家が現地で収集した貴重な民俗資料、市場で買った村のおばあさんの手仕事、現代作家の作品など様々な刺繍が登場します。それぞれの地域と人々に思いを馳せながら、ぜひ作品を味わってみてください。

◎ 翻訳できない 世界のことば
　エラ・フランシス・サンダース（著）前田まゆみ（訳）創元社　801 S111

これまでの本では、考え方、料理、伝統を紹介してきましたが、他文化を理解する際に欠かせないものはまだあります。その地の言語について知ることです。翻訳できない言葉、つまり他の言語では一言で表せない言葉が、この本には 52 個も取り上げられています！　日本語には、「木漏れ日」や「積ん読」などがありますが、世界には他にどのような翻訳できない言葉があるのでしょうか？　本書から一部紹介します。

- szimpatikus　スィンパティクシュ　（ハンガリー）
  だれかと初めて出会って、直感的にその人が良い人だと感じるとき、その人は szimpatikus だと表現する。
- ᐃᑲᓗᐊᖅᑐᒃ　イクトゥアルポク　（イヌイット）
  だれか来ているのではないかと期待して、何度も何度も外に出て見てみること。
- mångata　モーンガータ　（スウェーデン）
  水面にうつった道のように見える月明かり。

裏も ▶

• （アラビア）ヤーアブルニー　يقبرني

直訳すると「あなたが私を葬る」。その人なしでは生きられないから、その人の前で死んでしまいたい、という美しく暗い望み。

• （イディッシュ）トレップヴェルテル　טרעפווערטער

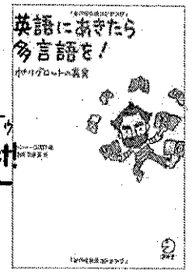
直訳すると「言葉の階段」。あとになって思いうかんだ、当意即妙な言葉の返し方。

• （ペルシア）ティヤム　تيام

はじめてその人に出会ったときの、自分の目の輝き。

おもしろいですね…！！　これまで経験したことのある、うまく言い表せない物事や感情を、一言で言えちゃう外国語があったんだ、とわくわくしてくるはずです。また、この本のデザインはとってもおしゃれで、絵も独特で、見ているだけでも楽しいです！　また、この本の中に登場する、見たこともないようなユニークな文字が気になった人に最高におすすめの本もあります。↓　ぜひ手に取ってみてください！

◎ 図説　世界の文字とことば　　町田和彦（著）河出書房新社　801 M8



スィープ　タヴァスィ　ス{イ/ウ}ネテット
Szép tavaszi Szünetet!

◎ 英語にあきたら 多言語を！　ポリグロットの真実

トニー・ラズロ（著）小栗左多里（画）　アルク　804 LA　素敵な 春の 休みを

上の本がツボにはまった人は、この本も楽しんでもらえるはずです！　この仕事をしているのに、「英語にあきたら…」なんてタイトルのこの本をお勧めして大丈夫かと、最後まで迷っていました。私の英語の勉強量なんて、飽きるほどにはまだまだ到底及んでいないのに…。それでもこの本は全ての言語学習者にとって読む価値があると思うので、勇気を持って強くお勧めします…。

ハンガリー人の父とイタリア人の母の間に生まれ、アメリカ育ちの著者が、第二言語である日本語で執筆したのがこのエッセイ。自他ともに認めるポリグロット（多言語使用者、マルチリンガル）である彼は、他にもドイツ語、スペイン語、中国語を習得し、その他驚くほど多くの言語を学習している、言ってしまえば変わり者です。ちなみに、あの映画化もされたコミックエッセイ「ダーリンは外国人」は、実はこの本の著者ラズロさんの奥さんの小栗さん（本書の挿絵担当）の作品で、ラズロさんとの生活の様子について描いたものです。本書は、ポリグロットであるラズロさんの考え方や、言語学習への様々な取り組み方、言語そのものへの強い愛が、気さくな語り口調で書かれている、ユニークなエッセイです。「学習する前にする学習」「子どもに負けるな！」「発音できない言語―舌打ち音に挑戦」「その本を二度買え！」「喋る相手はオシャベリに」などのたくさんの小さなパートに話が分けられていて、その最後には、小栗さんの二コマ漫画があって、軽くさくさく読み進められます。

みなさんも大学へ行けば、外国語学部でなくても第二外国語の授業が待っています。わくわくしている人、憂鬱に感じている人、いると思います。（ここから先は、授業を担当していたみなさんにはもうお話ししましたが…）外国語なんて勉強しなくても、翻訳アプリなどを使えばいいじゃないか、という人も多いかもしれませんが、いつでも翻訳機を使えるわけではありません。友達と議論や喧嘩をするとき、冗談や皮肉を込めて話したいとき、好きな人に告白するとき、翻訳機越しの対話は、きっと上手くはいかないでしょう。

将来外国で働く予定はないし…、というみなさん、外国語学習からは、言語能力以外にも色々な副産物が得られます。まず、優しさと視野の広さです。外国語で作られたものを読んだり見たりしながら、その地域の文化も学ぶことで、世界にはこんなに自分と違う価値観の人がいるのかと気づき、自分の身近な人の考えも、より尊重できるようになるはずです。また、コミュニケーションをとること自体に慣れることができます。外国語でのコミュニケーションという難しいことを続ければ、母語でのコミュニケーションも段々と上手くなるものです。私自身も、大学で専攻していたハンガリー語の学習を通して、知らない人や多数の人と日本語や英語で話す抵抗が、

前より少なくなりました。コミュニケーション力がない人はいません。元から備わっているコミュニケーション力を引き出すことに慣れているかどうか、だと思います。

今私たちが日々頑張って勉強している外国語は英語ですね。外国語学習が好きな人も、そうじゃない人も、ぜひこの本を手にとってみてください。言語愛にあふれた著者の視点を通して、いつもとは違った角度から、外国語の一つである英語に向き合うことができると思います。

◎ 人類の悲しみと対峙する　ダークツーリズム入門ガイド

いろは出版　290 I20 I

ここまで読んでくださったみなさんはもう、そろそろ旅行に行きたくなってきましたね…！　食べ物が美味しい国？　インスタ映えする風景がある場所？　特別な体験ができるところ？　過去の思い出の地？　今は旅行する予定がなくても、ガイドブックやネットの記事などは、見ているだけでも楽しいですよね。でもこの本は、見ていても全くうきうきしない、それどころか、つらくなってしまう観光ガイドブックです。

「ダークツーリズム」という言葉を聞いたことはありますか？　過去に、人間の過ちによる悲惨な出来事があったことで有名になった場所を巡る旅のことです。そう、この本はそんな場所ばかり紹介する、ダークツーリズムガイドなのです。例えば、どんな場所が掲載されているのでしょうか？　日本なら、原爆ドームや大久野島など、外国なら、キリング・フィールド、チェルノブイリ、リオのファベーラ、イスラエルの分離の壁、ムランビ虐殺記念館、など、世界様々な地域の 36 の場所が紹介されています。それぞれの場所のカラー写真が見開きで掲載されていて、それをめくると、その場所についての詳しい解説と、周辺にある観光地やおすすめの食べ物など、そして訪れるベストシーズンと交通費、さらにはモデルプランまで書かれています！　つまり、人類の悲しみの現場ばかり紹介しているという点以外は、普通の観光ガイドブックなのです。

では、悲しくなったり、不愉快になったり、怒りさえわいてくる、そんな場所だけを集めたこの本のいいところとは何なのでしょうか…？　みなさんは今まで、戦争や人災、差別や迫害などについて、本や映画を見たり、当事者から話を聞いたり、その地に訪れたりして、実際にその辛すぎる出来事を「間接的に実感」したことはどれぐらいありますか？　３年前、妙な義務感のようなものを感じて、本書にももちろん登場するアウシュビッツ強制収容所に一人訪れました。建物や展示品に漂う、どうしようもない絶望感と締め付けられるような苦しさで立ちすくんでしまったことは、今でも鮮明に覚えています。テレビや教科書でよく知っていたはずだったのに、百聞は一見に如かずとはこのことか、と実感しました。あれ以来、人間の過去の失敗を私たちはできるだけ多く「間接的に実感」すべきだ、過去の残酷な苦しみを風化させてはいけない、と益々思うようになりました。この本は、その第一歩を促してくれるものです。

この本には日本国内の場所も５か所掲載されています。今後、自由に旅行ができるようになれば、楽しくてウキウキする旅行も当然とても大切ですが、たまには、このダークツーリズムガイドで紹介されているような場所にも訪れてみてください。それが、明るい未来にするために、みなさんがつらい歴史を「間接的に実感」する経験となります。最後に著者の言葉の一部を紹介します。「ただ足を運んで、見て、湧き上がる感情と対峙してほしい。その感情が、あなたにとってのダークツーリズムの意味そのものです。」

ここまで読んでくれた方、ありがとうございます…！
暗い本で終わってしまいましたが、みなさんの未来はきらきらと明るいです！
今は長期貸出期間で、４月８日まで借りられます！
この春休み、ぜひいつもと違った本を手に取って、気分新たに新年度を迎えましょう☺

{ケ/コ}{セ/シ}{キ/ン}ム　スィーペン
Köszönöm　Szépen!
ありがとう　どうも